第9章 都市計画対象道路事業に係る環境影響評価の項目 並びに調査、予測及び評価の手法

## 第9章 都市計画対象道路事業に係る環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価 の手法

## 9.1 専門家等による技術的助言

環境影響評価項目並びに調査、予測及び評価の手法の選定にあたり、専門家等の助言を受けており、その専門家等の専門分野及び助言内容については、表 9-1に示します。

表 9-1 専門家等の専門分野、助言内容

専門分野	技術的助言の内容
大気	・方法書案の項目並びに調査、予測及び評価の手法について異論なし。 ・調査地点の設定にあたっては、道路構造、周辺建物等に留意し、地域特性に応じた適切な地点を選定すること。 ・調査時期の設定にあたっては、気象条件に留意すること。 ・予測にあたっては、道路構造に対応した手法で行うこと。
騒音、振動	・方法書案の項目並びに調査、予測及び評価の手法について異論なし。 ・調査地点、予測地点の設定にあたっては、道路構造が変わる箇所を中心に調査を 実施すること。
水質・水底の底質	・方法書案の項目並びに調査、予測及び評価の手法について異論なし。 ・調査地点の設定にあたっては、網羅的に配置するより、重要な場所での重点的な 調査を検討すること。 ・水質(水の濁り)については、河川下流で事業用水などの水利用がある場合の影響に、特に留意すること。
水文環境	・方法書案の項目並びに調査、予測及び評価の手法について異論なし。 ・国分川周辺(特に沖積低地)について、事業実施(地下構造物の設置)に伴う地 下水への影響を検討すること。
動物	・方法書案の項目並びに調査、予測及び評価の手法について異論なし。 ・調査地点の設定にあたっては、網羅的に配置するより、重要な場所での重点的な 調査を検討すること。
鳥類	・方法書案の項目並びに調査、予測及び評価の手法について異論なし。 ・調査地点の設定にあたっては、人が立ち入らない場所は鳥類にとって良好な生育環境となっていることから、重点的な調査を検討すること。 ・保全措置の検討にあたっては、猛禽類の保全事例は数多く存在するため、それらを参考に検討するとともに、飛翔軌跡等から行動圏となる高利用域の範囲を把握すること。
植物	<ul> <li>・方法書案の項目並びに調査、予測及び評価の手法について異論なし。</li> <li>・調査地点の設定にあたっては、網羅的に配置するより、重要な場所での重点的な調査を検討すること。</li> <li>・本事業における交差道路の切り回し、付け替え道路、工事用道路等の影響も考慮すること。</li> <li>・植物(宿主)は普通種であっても、動物の重要種の生息基盤になっている場合があるので留意すること。</li> </ul>
生態系	・方法書案の項目並びに調査、予測及び評価の手法について異論なし。 ・湧水など地下水への影響が、生態系に及ぼす影響も考慮すること。

## 9.2 環境影響評価の項目

対象事業に係る環境影響評価の項目は、一般的な道路事業について「道路事業に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令」(平成 10 年 6 月 12 日建設省令第10 号)及び「道路が都市施設として都市計画に定められる場合における当該都市施設に係る道路事業に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令」(平成 10 年 6 月 12 日建設省令第 19 号)(以下、「国土交通省令」といいます。)に規定された「参考項目」等を勘案し、「国土技術政策総合研究所資料第 714 号 土木研究所資料第 4254 号 道路環境影響評価の技術手法(平成 24 年度版)」(平成 25 年 3 月 国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所)及び「国土技術政策総合研究所資料第 842 号 道路環境影響評価の技術手法 4. 騒音 4.1 自動車の走行に係る騒音(平成 26 年度版)」(平成 27 年 3 月 国土交通省国土技術政策総合研究所)(以下、「技術手法」といいます。)、「千葉県環境影響評価技術指針に係る参考資料」(平成 13 年 4 月 千葉県)(以下、「千葉県技術指針参考資料」といいます。)を参考のうえ、配慮書での検討結果、事業特性、地域特性及び専門家等による技術的助言を踏まえて検討し、環境影響評価を行う項目を選定しました。

本事業における環境影響評価項目の選定結果及び選定理由は、表 9-2に示します。

環境影響評価項目は、大気質、騒音、低周波音、振動、水質、水文環境、地盤、日照阻害、動物、植物、生態系、景観、人と自然との触れ合いの活動の場、廃棄物等に係る項目を選定しました。

表 9-2 本事業における環境影響評価項目の選定結果及び選定の理由

/									~ 年半	1十十/作成	notet	
/			影響要因の区分		H	工事の実施			\ ====================================	は が 気 形 点	くはようがいではくなくは、	
環境要素の区分				建設機械の稼働管打りた機械の運搬に用いる車両の運行	等するで参考の重要と目に、こますの量で切上下等文は好存の工作物の除去	掘削工事、トンネル工事の実施	一番娘上を上りいい	工作日本の記事のお客回	道路(地表式又は掘割式)の存在	消露(高上式)の存在	道路(地下式)の存在自動車の走行	事業特性・地域特性を踏まえた項目選定の理由
職境の自然的構 成要素の良好な 状態の保持を言	大気環境	大気質	二酸化窒素 浮遊粒子状物質	•	•						0	調査区域には、住居等が存在し、工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行)及び供用後の自動車の走行に係る 二酸化窒素、浮遊粒子状物質の影響が考えられるため、項目として選定します。
C して調査、予例 及び評価される くき環境要素			巻じと編	0	0				_			調査区域には、住居等が存在し、工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行)に係る粉じん等の影響が考えられるため、項目として選定します。
		地震	- 早	0	0						0	調査区域には、住居等が存在し、工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行)及び供用後の自動車の走行に係る 騒音の影響が考えられるため、項目として選定します。
		擬動	扳動	0	0						0	調査区域には、住民等が存在し、工事の実施(建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行)及び供用後の自動車の走行に係る 接動の影響が考えられるため、項目として選定します。
		低周波音	低周波音								•	調査区域には、住居等が存在し、計画路線のうち一部の区間について道路構造を潜上式とする計画であり、供用後の自動車の走行に係る低層 接着の影響が考えられるため、項目として選定します。
	水環境	大	水の濁り		•						,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	調査区域には、河川等の公共用水域が存在し、工事の実施(切土工等又は既存の工作物の除去、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置) に係る濁水の影響が考えられるため、項目として選定します。
		水文環境	11		•	•			•		•	調査区域には、河川の利用が認められ、工事の実施(切土工等又は既存の工作物の除去、掘削工事、トンネル工事の実施)及び供用後の道路 (掘割式、地下式)の存在による河川流量への影響が考えられるため、項目として遜定します。
			地下水		•	•			•		•	調査区域には、湧水とそれに続く湿地帯が存在し、工事の実施(切土工等又は既存の工作物の除去、掘削工事、トンネル工事の実施)及び供用後の道路(掘割式、地下式)の存在に係る地下水への影響が考えられるため、項目として選定します。
	土壌に係る環境 その他の環境		地盤沈下			•			•		•	調査区域には、住居等が存在し、工事の実施(掘削工事、トンネル工事の実施)及び供用後の道路(掘削式、地下式)の存在に係る地盤沈下の影響が考えられるため、項目として選定します。
		その他の 環境要素	日照阻害							0		調査区域には、住居等が存在し、計画路線のうち一部の区間について道路構造を潜上式とする計画であり、供用後の道路(潜上式)の存在に 係る日照阻者の影響が考えられるため、項目として適定します。
生物の多様件の確保及び自然環境の体系的体系的保全をでしています。	動物		重要な権及び 注目すべき生息地	•				. 0	. 0			調査区域には、重要な種及び注目すべき生息地が確認されており、工事の実施(建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置)及び供用後の道路(地表式、掘割式、潜上式)の存在に係る動物への影響が考えられるため、項目として選定します。
A TELO C.M. I.Y. 予測及び評価な わるべき環境関 素	植物		重要な種及び群落	•	•	•		0	0			調査区域には、重要な種及び酵落が確認されており、工事の実施(工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置)及び供用後の道路(地表式、 掘割式、潜上式)の存在に係る植物への影響が考えられるため、項目として選定します。
	生態系		地域を特徴づける生態系	***************************************	······	***************************************		0	0			調査区域には、地域を特徴づける生態系が存在し、工事の実施(工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置)及び供用後の道路(地表式、 掘割式、嵩上式)の存在に係る動物及び植物への影響が考えられるため、項目として選定します。
人と自然との豊かな触れ合いの 確保を旨として	景観		主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観	***************************************	•	•			0		*******************************	調査区域には、主要な眺望烏等が存在しており、供用後の道路(地表式、掘割式、嵩上式)の存在により、調査区域における不特定多数の人 が利用する地域の眺望景観等への影響が考えられるため、項目として選定します。
国世、「宮久で町 届みたるくや顔 瀬脚紫	人と自然 の場	との触れ合いの活動	動 主要な人と自然との触れ合 いの活動の場	***************************************					0		<b></b>	調査区域には、主要な人と自然との触れ合いの活動の場が存在しており、供用後の道路(地表式、掘割式、嵩上式)の存在により、調査区域 における不特定多数の人が利用する主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響が考えられるため、項目として選定します。
環境への負荷の 量の程度により 予測、評価される	廃棄物等		建設工事に伴う副産物		0							対象事業に係る工事の実施(切土工等又は既存の工作物の除去)により、建設副産物の発生が考えられるため、項目として選定します。
(注: ) 表中の "○" 日 注: ) 大の表において (注: ) この表において	和は道路事業に係る で各用語の定義は、	5参考項目であり	**発光炎** 素中の "**1 印は道路事業に係る参考項目であり、本事業においても環境影響評価項目として適定した項目、 この表において本用部の作業は、以下に示すとおりである。	目として運	龍定した項			印は道路事業に係		項目で	る参考項目ではないものの、	の、事業特性、地域特性から環境影響評価項目として選定した項目、"   <del>                                   </del>

注:) この妻において各用語の定義は、以下に示すさおりである。

「工事性に対して、工事性の作業に必要なな成として設置される反域をいう。

「工事性に禁にと変なる成として設置に対している。

「大事性に対して、人工事件の所属に対している。

「大事が生の場合がある。」とその他の理由により注目すべき生息地をいう。

「日本年では、はいしん及び自動車の運行又は海投機の影響にはいる生命を持ち着の多ととその他の理由により注目すべき生息地をいう。

「日本等・出版を特徴が17の全に関し、上位性、無型性及び特殊性は別点から注目される影像がの種又は生物群塊をいう。

・理な体験では20人を生態がが利用している素製質器を眺望する場合の課望する場合を表すという。

・要ななれた。主要な能望点、不存在から表慮影響を発しまって場合の能望する場合を表する。

・主要なな能望を表する場合の能望する場合の能望される素製をいう。

・主要なれたり自然との触れ合いの活動の場:不特定かつ多数の者が利用している人と自然との触れ合いの活動の場をいう。

## 9.3 調査、予測及び評価の手法

選定した環境影響評価項目に係る調査、予測及び評価の手法については、「国土交通省令」、「技術手法」、「千葉県技術指針参考資料」及び専門家等による技術的助言を参考に選定しました。

選定した環境影響評価項目に係る調査、予測及び評価の手法並びに選定した理由は表 9-3に示します。

表 9-3(1) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

;	手法の選定理由	を 職業 業権 体 及 公 保 報
	評価の手法	1. 回議又は低減に係る評価 建設機の変傷。 資材及で機模の 金額: 建設機関の変傷。 資材及で機模の 全額: 心室素及び環境粒子状物質に関する 子詢及び再価の手 が必要にていてその他の方法には が必要にていてその他の方法には が必要にていてその他の方法には が表すているかどうかについて、事 におりな がの工程のですます。 に の
HH TH	4	1 子側の基本的な主接ない。 1 子側の基本的な主義といて、年上 1 自動度 (任格の方面) 2 子側地域は、調査地域と同様とします。 2 子側は、 2 子側はは、 2 子側ははは、 2 子側ははは、 2 子側ははは、 2 子側ははは、 2 子側ははは、 2 子側ははは、 2 子側はははは、 2 子側ははは、 2 子側はははは、 2 子側はははは、 2 子側はははは、 2 子側はははは、 2 子側はははは、 2 子側ははははは、 2 子側はははは、 2 子側ははははは、 2 子側はははははははははははははははははははははははははははははははははははは
	調査の手法	・調査力 ・調査力 ・調査力 ・調査力 ・ 調査力 ・ 対域 ・
	当該項目に関連する地域特性	議議とは、「他表表(優生)、「住居等の保全対象の配置の1、調査をよる情報 構造、 地表式、 (優生)、住民等の保全対象の配置の1、調査と素の機模の対象の 関本では、 (高突棒池)、
	当該項目に関連する事業特性	
田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	影響要因の区分	二酸化窒素及び 工事の実施 (建設 環遊粒子状物質 機械の稼働) 及び機械の運搬に 用いる車両の運 行) 古地又は工作物の 存在及び供用(自 動車の走行)
1	職大選業	大       (数)

表 9-3(2) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

	手法の選定理由	事業特性及び地域特件 を踏まえ、国土交通省今及 び技術手法を参考に調査、 予測及び評価の手法を選 定しました。	
	評価の手法	1. 回避又は低減に係る評価 種穀機械の影衝及び資材及び機械 の運搬に用いる車両の運行に伴う物 じん等に関する影響が、事業者により 実行可能な範囲内でできる限り回 他の方法により、必要に応じてやの 他の方法により。緊握保全についての にから、事業者の見解を申らかに することにより評価します。 多にん等については、国等による 物でん等については、国等による が、参考となる指標である降下に だ、参考となる指標である降下はい にした。 との整合が図られていません が、参考となる指標である降下はい との整合が図られていません が、を考となる指標である降下はい との整合が図られていません が、を考となる指標である降下はい にします。	
# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	1	1. 予測の基本的な手法 事例の引用又は解析により得られた経 慶式を用いて、季節別降下ばいじん量を予 測します。 2. 予測地域 予測地域は、調査地域と同様とします。 予測地点は、工事施工ヤードの敷地境界 とし、都市計画が象道路事業実施区域近傍 に保金対象が存在する代表的な地点とし ます。 4. 予測対象時期 4. 予測対象時期 4. 予測対象時期 6. 上ます。 6. とします。 6. とします。 7. 第初教の環境影響が最大となる時期とします。 6. とます。	1. 予測の基本的な手法 事例の引用又は解析により得られた経 製式を用いて、季節別降下ばいじん量を予 測します。 2. 予測地域 予測地域は、調査地域と同様とします。 3. 予測地域 介、保金対象が存在する代表的な地点と いて、保金対象が存在する代表的な地点と します。予測高さは、原則として地上1.5m とします。 予測対象時期
「公里」の父が「、中国の、この八里」=「次兄子	調査の手法	調査すべき情報 粉じん等の状況 気象(風向、風速)の状況 調査の基本的な手法 精の状態がに当該情報の整理及び解析による 務の収集がに当該情報の整理及び解析に 務の状態がに当該情報の整理及び解析に 数の大ます。 の気象官署である船橋地域気象線測所 いる人域に発力の測定結果を整理すること より行います。 の対の主義の方、粉じん等の状況は「衛生 整法・注解 2015」(平成27年3月 日本薬 会編)に基づく 監とし、気象(関連) のが況については「地上気象(観測指針) 中域14年3月 気象庁)に準拠した方法に 引の状況については「地上気象(観測指針) 平成14年3月 気象庁)に準拠した方法に があると認められる地域において、住居等 保全対象が立地する地域とします。 調査地点 調査地点 調査地点 高温を加減。	調車型の場合との第一のカーンサン外の4の回りに10円 5. 調本期間等 取存資料調査については、最新年度を含む 過去5. 和本を基本とします。 現地調査については、季節変化を把握する ため、粉じん等の状況は1ヵ月間/1季×4季、 気象の状況は1週間/1季×4季とします。
# 当該項目に関連する地域特性    1.1 住居等の保全対象の配置の1.1			1. 30-70 KW AM
	当該項目に関連する事業特性	道路構造は、地表式(磁土 構造、地土構造)、掘割式(細 型構造)、潜上式(商架構造)、 田下は、トンネル構造)を計 国しています。 工事の実施(建設機械の線 動)に係る粉じん箏の影響が 考えられます。	道路構造は、地表式(協工 構造、切上構造)、描型式(描 型構造)、結上式(高架構造)、 国上でいます。 工事の実施(資材及び機械 の運搬に用いる車両の通行) に係る粉じん等の影響が考え られます。
Ē Π		工事の実施 (建設 機関の影響)   機関の影響)   機関の影響)   1   1   1   1   1   1   1   1   1	工事の実施(資材及び機械の運搬に 用いる事両の運搬に 行)
	環境 要素 の区分	大気質をころ棒	

表 9-3(3) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

	手法の	遍に准田	・ 事業特権及び地域移権 でな解決、国土交通者・ の ・ 国土交通者・ の ・ 選及・ の ・ ました。 ・ ました。 ・ できた。 ・ できたた。 ・ できたたたた。 ・ できたた。 ・ できたた。 ・ できたた。 ・ できたたた。 ・ できたた。 ・ できたた。 ・ できたた。 ・ できたたた。 ・ できたたたまたたた。 ・ できたたた。 ・ できたたた。 ・ できたたたたたた。 ・ できたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
	11 11	鬥	をび 予定事 路技測 し
	And the last	評価の手法	1. 回避文は低減に係る評価 一個整数機の移動に任う場合に関す 2. 整準により場子により が、必要に応じてその他の方法により な環境保全についての配慮が適正に な環境保金についての配慮が適正に な場合の足解を関ちかにすることによ 野価します。 2. 基準文は目標との整合 「顧音規制法」に係る「特定建設 作業に伴って発生する騒音の規制に 高かどうかを評価します。 あかどうかを評価します。
ECC	手 第一	予測の手法	予測の基本的な手法 昔の伝染理論に基づく予測式である一 (MSI CA-Wootal 2007) を用いて、解音 ベルの 90% レンジの上端値 (As) を予 します。 ・選地域は、調査地域と同様とします。 予測地域は、調査地域と同様とします。 予測地域は、調査地域と同様とします。 ・割地域は、原則として地上 1.2m し、若市計画対象道路事業実施区域近傍 存金分が存在する代表的な地境界 す。予測高さは、原則として地上 1.2m と対象が存在する代表的な地点とします。 ・一部対象時期は、建設機械の稼働による 音の環境影響が最大となる時期としま 音の環境影響が最大となる時期としま。
※5557 mm 1 0 2 1 . 0 mm 1 、		調査の手法	調査すべき情報 脂質の基本的な手法 脂質の基本的な手法 脂質の基本的な手法 脂質の基本的な手法 脂質の表表的な子子 提制法」(昭和43 年6月10日法律第98号) こより定められた「特定建設作業に伴つて発 こより定められた「特定建設で第1号)に規定 1月27日厚生省・建設省中71号)に規定 別表面の状況 調査地域、音の伝統の特性を暗まえて、 高質性域における環境影響を受けるおそれがあると 高音に係る環境影響を受けるおそれがあると 調査地域によける確立とよす。 調査地域によける経過を受けるおそれがあると 高音に展立によける確立とます。 調査地域によける顕音等の状況が適切に把握 調査地域によける顕音等の状況が適切に把握 調査地域によける顕音等の状況が適切に把握 調査地域によける顕音等の状況が適切に把握 調査地域になける疑惑とします。 指をします。 指をします。 指をします。 指をします。 1年とします。 1年とします。 1年とします。 1年とします。 1年とします。 1年とします。 1年とします。
(2)22	当該項目に関連する地域特性		(磁土) ・
	当該項目に関連する事業特性		一種語の 一種語の 一種語の 一種語の 一種の 一種の 一種の 一種の 一種の 一種の 一種の 一種
	項目影響要因	の区分	は を を を を を を を を を を を を を
	環境産業	の区分	<b>- 英</b>
	湖海	格米	海

表 9-3(4) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

	中法の端が留子	<b>ש</b> 作姓田	事業特性及び他城特性 を路まえ、国土交通省今及 な政権手法を参考に調査、 予測及び罪告に調査、 でしました。 の手法を選 定しました。	事業特性、地域特性及び 計画段階類策配。書の検 計画段階類策配。書の検 計画段階類策配。 省合及び技術主法、世 省合及び技術等。 に調査、予測及び評価の手 法を選定しました。
	大州・	評価の手法	1. 回避又は低減に係る評価 資材及び機機の直搬に用いる車両を踏まえ、国土交通省等及 資材及び機機の直搬に用いる車面を踏まえ、国土交通省等の の運行により塞音に関する影響が、び技術手法を参考に開査。 事業者により集行の配慮が適正になされている たったつか配慮が適正になされている るかどうかについて、事業者の具解 を明らかにすることにより評価しま 「騒音に係る環境基準について」 との整合が図られているかどうかを 評価します。	1. 回避又は低減に係る評価 目動車の表行に伴う顕音に関する 目動車の表表でに関する 影響が、事業者により実行可能な範 和、必要に応じてその他の方法によ り環境保全についての配慮が適正に なされているかどうかについて、事 業者の見解を明らかにすることによ 野評価します。 と基準又は目標との整合 「騒音に係る環境基準について」 をの整合が図られているかどうかを 評価します。
Z	H- 斑 新 **	上側の手法	1. 予測の基本的な手法 音の伝療理論に基づく予測式である一 時の任機理論に基づく予測式である一 次化SI RIN-Model 2018を用いて、既存道 8.の現況の等価騒音レベルに工事用車両 の製盤を加味して等価騒音レベルに工事用車両 を予測します。 2. 予測地域 予測地域は、調査地域と同様とします。 7. 海地域は、調査地域と同様とします。 7. 海地域は、工事用道路の接続が想定される既存置路等における資材及で機械の 2. 予測地域は、工事用道路の接続が想定と いて、保全対象が存在する代表的な地点と します。予測対象時期は、資材及び機械の運搬に 平測対象時期 予測対象時期	1. 予測の基本的な手法 音の伝機理論に基づく予測式である 目前車の本任に伴う履行に関う機合と関う 音の伝機理論に基づく予測式である 目前車の本任に供う履行に関う解析果を踏まえ、国土交通 を注します。 一般社団は入日本音響学会より提案された 影響が、事業者により実行可能な範 附結果を踏まえ、国土交通 主が87 RTN-Model 2018 を用いて、等価額 田内でできる限り回避又は低減さ省令及び技術手法を参考 音レベル (ム <sub>nek</sub> ) を予測します。 り環境保全についての配慮が適正に 法を選定しました。 2. 予測地域は、調査地域と同様とします。 なっていての配慮が適正に 法を選定しました。 2. 予測地域は、調査地域と同様とします。 なっていての配慮が適正に 法を選定しました。 2. 予測地域は、調査地域と同様とします。 なっていての配慮が適正に 法を選定しました。 2. 予測地域は、調査地域と同様とします。 なっているかどうかを り評価します。 「配着に係る環境基準について」 地点とします。予測高さは、原則として地 4. 予測対象時期は、計画交通量の発生が見 5. 予測対象時期は、計画交通量の発生が見 5. 予測対象時期は、計画交通量の発生が見
※55%   100	される。	調金の手法	調査すべき情報 脂質の状況 脂質の状況 脂質の状況 調査の基本的な手法 調査は、現地調査により行うこととし、「脳 10行います。 10行います。 10行います。 10行います。 10行います。 10行います。 10行います。 10行います。 10行います。 10分にます。 高量がは、現地踏査による情報の収集並びに 高量が成代、音の伝搬の特性を踏まえて、 音に係る環境影響を受けるおそれがあると あられる地域において、住居等の保全対象 に係る環境とします。 にがる環境とします。 にがる環境とします。 調査地点に、予測地点との対応を考慮し、 電地域における騒音等の状況が適切に把握 高を助気ときまる。 20箇所を選定します。 高本期間等 調査時期は、 高値がによりています。 10世でも地域とします。 10世でもします。 10世でもの対応を考慮し、 高速が引作を対象と 20世域とと考えられる11年と、 20世域における騒音等の状況が適切に把握 を20箇所を選定します。 20世域における騒音等の状況が適切に把握 を20箇所を選定します。 20世域を10世域と10世域を30世域と10世域を30世域と10世域を30世域と10世域を30世域と10世域を30世域と10世域を30世域と10世域を30世域と10世域を30世域と10世域を30世域を30世域を30世域を30世域を30世域を30世域を30世域を3	調査中ペき情報 指導の状況 指導の状況 調査の基本的な手法 調査は、現地調査により行うこととし、「顯 日環境省告示第 64 号)に準拠する方法に り行います。 沿道の状況 調査地域は、音の伝搬の特性を踏まえて、 調査地域は、音の伝搬の特性を踏まえて、 調査地域は、音の伝搬の特性を踏まえて、 調査地域は、音の伝搬の特性を踏まえて、 調査地域は、音の伝搬の特性を踏まえて、 調査地域において、住居等の保全対象 があると あられる地域によいて、住居等の保全対象 があると をもします。 調査地点は、予測地点との対応を考慮し、 電地域における顕音等の状況が適切に把握 きる箇所を選定します。 が数を呈すると考えられる11日とし、環境 準の基準時期は、属音が14年間を通じて平均的 が況を呈すると考えられる11日とし、環境
(1)00 X	当該項目に関連する地域特性		住居等の保全対象の配置の 状況 指型 ( 大力	3 と地域の顕音に係る環境 1 以下の関合は、49.1%。 10%となっています。また、 (韓国道6 号の1地点を除くす (帝国道6 号の1地点を除くす (中国元度等制限度以下の にての地点で要請限度以下の にての地点で要請限度以下の になっています。 基本名、配音の環境基本送」 基本名、配音の環境基準の描 指定地域及び「騒音規制法」 基本名、国動車騒音に関する に加区域があります。
	当該項目に関連する事業特性		が が は は が は は が は は は は は は は は は は は は	対象道路は、延長約15km、 車線数4 車線の一般国道の砂 74 無部が 80km/h、一般 60km 要 道路構造は、地表式、協工 道路構造は、地表式、協工 構造、第上式、高架構造、組制式(相工 を可しています。 土地又は工作物の存在及び 土地又は工作物の存在及び 大地 16km 60km 40km 60km 60km 60km 60km 60km 60km 60km 6
	美田 影響要因		工事の実施(資材及び機械の連續に 用いる 車両の運 行)	士地又は工作物の 存在及び供用 (自 動車の走行)
	環境要素	の区分	や中の関	
	類海	<b>水</b>	克 運	

表 9-3(5) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

		性及意識
(9)	田	がある。
手	選定	・
		関能減に正、に 設にる かなさいに事よ 作関か かなさいに事よ 作関か 事故が予定
	#1	群うり避他配にす。 合る動の 価級実力の悪つる 特のた では方がいこ 足親て 世親では「原送酒では」 建削い 種間い
	評価の手続	減極業をじつか町。 標法生難しにに働きませている。 一切の としょう はい
		は一般ななが一点の表面にある。 は一般な数様になる。 ないのできる時の回避又は低減さ予測を発表を参考に調金、 が、必要になってその回避がは低減さ予測及び評価の手法を参考に調金、 が、必要になって、のの配高が通正になった。 なりのがです。かについての配高が通正になった。 なるれているかどうかにすることにより。 の評価します。 と、基準又に目標との整合 に、数の数とがです。 と、表準又には、多なには、 を、表に伴っななれて、多ななななない。 と、表準との整合が図られているか とうかを評価します。 と、まないない。 ないないないない。 ないないないないない。 ないないないないない。 ないないないない
-		
	717	8 2 3 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8
斑	予測の手法	はない
#		1. 予測の基本的な手法 事例の周和又(2. 2. 4) を予測します。 2. 予測地域、調査地域と同様とします。 3. 予測地域、調査地域と同様とします。 予測地域は、調査地域と同様とします。 予測地域は、工事施工ヤードの敷地境界 予測地域は、工事施工ヤードの敷地境界 1. 4 不測対象時期 1. 4 予測対象時期 予測
_		接続まるに、たる事へ置的設時に、な場合、「大人の事」を選集。 いい とにま 4 振寸子平用値 予予 予予します 予予の 現
		11月 10 E C C C C C C C C C C C C C C C C C C
	り手法	147 0 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12
	調査の	# 100 100 100 100 100 100 100 100 100 10
		1. 任用等の保全対象の配置の 1. 調査するき情報 和 表決 和 表決 和 社が的目となっており、任心 2. 調査の基本的な手法 2. 調査の基本的な手法 2. 調査の基本的な手法 2. 調査の基本的な手法 2. 調査の基本的な形 2. 関本は 大力 2. 世級の状況 3. 世級の大況 3. 世級の大別 3. 世級の大別 1. 関本の大別 1. 関本の大別 1. 世級の大別 1. 世級の大別 1. 世級の大別 1. 世級の大別 2. 機制の大別 2. 機関の対別 2. 機関の対別 2. 機関の対別 2. 機関の対別 2. 機関の対別 2. 機関の対別 2. 機関の対別 3. 地形及で地質の対別 2. 機関の対別 2. 機関の対別 2. 機関の対別 2. 機関の対別 2. 機関の対別 2. 機関の対別 2. 機関の対別 2. 機関の対別 2. 機関の対別 3. 地形及で地質の対別 3. 地形及で地質の対別 3. 地形及でが関盟がなかっ 3. 地形及でが関盟がなかっ 3. 地形及でが観測で 3. 地形及でが関盟がなかっ 3. 地形及でが関盟がなかっ 3. 地形及でが関盟がなかっ 3. 地形及でが関盟がなかっ 3. 地形及でが関盟がなかっ 3. 地形及でが関盟がなかっ 3. 地形及でが関盟がなかっ 3. 地形及でが関盟がなかっ 3. 地が分布しています。 3. 地形及でが関盟がなかっ 3. 地が分布しています。 3. 地が分布しています。 4. 関本に対しています。 3. 地が分布しています。 4. 関本に対しています。 5. 大型の可側の関切が関盟がなかっ 4. 関本に対しています。 5. 大型の対別を定すを定すとした 2. 機物が分布しています。 3. 地が分布しています。 4. 関本に対しています。 5. 大型の対別の対域が別別の対域が別別の対域が別別の対域が別別の対域が分布しています。 4. 単本の対域があるに対しています。 5. 大型の対域があるに対しています。 5. 大型の対域があるに対しています。 5. 大型の対域があるに対しています。 5. 大型の対域があるに対しています。 5. 大型の対域があるがは、 5. 大型の対域があるがよるに関係が分がしています。 5. 大型の対域があるに対しています。 5. 大型の対域があるに対しています。 5. 大型の対域があるがよるに関係があるに対しています。 5. 大型の対域があるがよるに関係があるに対しています。 5. 大型の対域があるがよるに関係があるがよるに関係があるがよるに関係があるがよるに関係があるがよるに対しな対域があるがよるに対しな対域があるがよるがよるに対しな対域があるがよるに対しな対域があるがよるがよるがよるがよるがよるがよるがよるがよるがよるがよるがよるがよるがよる
女 女 女	以 (注)	配 化、 業し分お は一個護養ホ人人が 動火 鬼にに 砂 路川大辺広の覆土 地口とて 路川立津泥。置 さ住 実て谷保お スの老護一ホ社あ に。 制件関 礫 事周准でが国う改 を一しい 事周地川がの れ宅 施はみ育ぞ 医ケ 人名名山田の 関 引っす 台 業辺川はっ分よ変 覆ムたま 業辺埋及ちょいの。3.1 動理すの 情よ 6. 振器が 4. 調で 6. な機間
一年2十里	連9の地	の保金対象の配置 (4分を対策する) 「4分を対策する) 「4分を対策する) 「4分を対策する) 「4分を対策する) 「4分を対策する) 「4分を対策なる) 10分数す階段としては、 10分割を
か石口シャ門	※項目に関	日1. 住品等の保金対象の配置の 第2000年2000年2000年2000年2000年2000年2000年200
	世史	職職、
条年2十年	単う り事業	は は は は は は は は は は は は は は
「石口)ア門	頃日に関い	
北款	∰ ∰	(型)
三条 新田田	影響要因 の区分	大学の実施 後受り (教育) (教育)
— — —	lk¢.	 
中世空里	環境要素 の区分	专
環境	要素	被
	### 1 #### 1 ### 1 ### 1 ### 1 ### 1 ### 1 #### ### 1 #### #### 1 #### #### #### 1 ######	項目         財産項目に関連する事業特性         当該項目に関連する地域特性         調査の手法         予測の手法         予測の手法         計価の手法         注

表 9-3(6) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

	手法の選定理由	事業特性及び地域特性 を踏まえ、国土交通省令及 び技術手法を参考に調査、 予測及び評価の手法を選 定しました。	
	評価の手法	1. 回避又は低減に係る評価 資材及び機械の運搬に用いる車面 適付及び機械の運搬に用する影響が 事業者により実行可能な能加力でで 等の限り回避又は何減なれ、必要に 応じてその他の方法により環境保全 たついての阻痛が適正になおてい をかどうかについて、事業者の見解 をかどうかについて、事業者の見解 を切らたすることにより環値によ 生態を に振動類地決」に係る道路交通核 動の要請限度との整合が図られてい あかどうかを評価します。	1 回議文法院談に係る評価 自動車の走行に任う振動に関する 影響が、事業者により集行司能な 部、必要に応じてその他の方法によ り環境保全についての配慮が適正に なされているかどうかについての配慮が適正に なされているかどうかについて。 野価します。 2. 基準文は目標との整合 「振動規制法」に係る道路交通振 動の異請限度との整合が図られているかどうかを存む。 るかどうかを評価します。
į	手、法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1. 日離又は低減に係る評価 振動レベルのハナバーセントレンジの 資材及び機械の運搬に用いる車両 出場値を予測するための式(旧海路省上外 の道行に伴う振動に関する影響が 研究の根準ととかの式(旧海路省上外 の道行に伴う振動に関する影響が 研究の提動レベルに工事用車の影響を加きる限り回離又は低減され、必要に 成し、後子測します。 (こ。) を予測します。 (こ。) を予測します。 (こ。) を予測地域 予測地域は、調査地域と同様とします。 予測地域は、調査地域と同様とします。 予測地域は、調査地域と同様とします。 予測地域は、調査地域と同様とします。 (1. 基準文は目標との整合 予測地域は、可違でがレート沿道にお かた、反とかる野田には、の要請限度との整合が図られてい 運搬に用いる車両の運行ルート沿道にお のの要請限度との整合が図られてい は、条対象が存在する代表的な地点と します。 (4. 予測対象時期 (4. 予測対象時期 (5. 基準文は日標との整合 が有及び機械の運搬に が高度を追りを評価します。 (5. 基準文は目標との整合 が存在する代表的な地点と (1. 表別な地点と (1. 表別な地点と (1. 表別な地点と (1. 表別な地点と (1. 表別な地点と (1. 表別な地点と (1. 表別な地点と (1. 表別な砂塊の)の要請限度との整合が図られてい が最大となる時期とします。	1. 可識の基本的な手法 上端値を予削するための大(日建設省上木 影響が、事業者により実行可能な 研究所の提案式)を用いて、振動レベルの 囲内でできる 限り 回避又は低減さ 80%レンジの上端値 (La)を予測します。 2. 予測地域は、調査地域と同様とします。 3. 予測地域は、調査地域と同様とします。 3. 予測地域は、調査地域と同様とします。 2. 予測地域は、調査地域と同様とします。 3. 予測地域は、一定なれているかどうかについて、 2. 予測地域は、一定なれているかどうかについて、 3. 予測地域は、一定なれているかどうかについて、 4. 予測が象時期は、計画交通量の発生が見 予測が象時期は、計画交通量の発生が見 を引が多時期は、計画交通量の発生が見 2. 表準又は目標との整合が図られていて 4. 予測が象時期は、計画交通量の発生が見 2. 表準又は目標との整合が図られていて 4. 予測が象時期は、計画交通量の発生が見 2. 表別が象時期は、計画交通量の発生が見 2. 表準又は目標との整合が図られていて 4. 予測が象時期は、計画交通量の発生が見 5. 表別が多時期とします。
	調査の手法	調査すべき情報 地盤の状況 地盤の状況 調査の基本的な手法 機動の状況 調査に、現地調査により行うこととし、「接 機動が状況 開業に、既存資料調査及び現地路査のほか、 地盤の状況 地盤の状況 調査地域に、振動の伝験の特性を踏まえて、 調在地域におりる場談を受けるおそれがあると いられる地域において、住居等の保全対象 い近中る地域において、住居等の保全対象 が立する地域において、住居等の保全対象 が立する地域において、住居等の保全対象 が立する地域において、住居等の保全対象 が立する地域において、住居等の保全対象 が立する地域において、住居等の保全対象 が成と呈すると考えられる1日とし、資材 状況を呈すると考えられる1日とし、資材 状況を呈すると考えられる1日とし、資材 が高型に必要な時間 帯とします。 機響の光測に必要な時間 押とし、資材 が高型に必要な時間 押とし、資材 が高型に必要な時間 押とし、資材 が高型に必要な時間 押とし、資材 が高型に必要な時間 ドルを重力の運行に係る製 影響の光測に必要な時間 押とし、資材 が高型に必要な時間 ドルスを手にまける表別を過程を設定します。	調査がよる情報 地盤の状況 地盤の状況 開動の状況 開動の状況 開動の状況 開動の状況 開動の状況 開動に、現地開産により行うこととし、「振 規制法施行規則」(昭和51年11月10日総 開発力量を表別し、理解する方法により行いま。 ・
	当該項目に関連する地域特性	(中国等の保全対象の配置の 状況 調査区域は、概む市街化され 地が多くみられます。 都市計画対象道路事業実施 域近くの教育施設としては ソデルセンが権國、線ケ徐み 19分権國、大町小学校、保育 12としては小盛保育園、おおぞ 19分権國、大町小学校、保育 12としては小盛保育園、おおぞ 12としては小盛保予園、おおぞ 12を上ではかます。 12を上では、医 2を上では、医 2を上のます。 12を上のます。 12を上のます。 12を上のます。 12を上のます。 12をかるには、 12をかるには、 12をかるがは、 12をかるが、 12をかるが、 12をかるが、 12をかるが、 12をかるが、 12をかるが、 12をかるが、 12をかるが、 12をかるが、 12をかるが、 12をかるが、 12をかるが、 12をかるが、 12をかるが、 12をがらいます。 12をかるが、 12をがらかるが、 12をがらがが、 12をがらがが、 12をがらががが、 12をがらがががが、 12をがらがががが、 12をがらががががががががががががががががががががががががががががががががががが	指定区域があります。 地形及び地質の状況 地形の状況 地形の状況 地形の状況 地形の状況 が分布しています。 また、都市計画対象道路事 は大路に乗り相の国分川周辺で 底平野・心を属・平野が、中央の大神 辺を東側の神崎川周辺で は不野・ならに、西側の神崎川周辺で は平野・心を属・平野が広が 成平野・心を高に が分布しています。 地質の状況 地質の状況 にています。 北蔵野ロ西側の国分川周 東蔵野ローム層が分布してい 東蔵野ローム層が上の 東蔵野ローム層が上の 東域野ローム層が出り 東域の神線川周辺では、 北部の上側が 上部がある路上改 が下、 大工地形である路上改 が、 北京がも推定 東域野ロームを が分布しています。 また、都市計画対象道路事 海が分布しています。 また、都市計画対象道路事 海が分布しています。 東域物が分布しています。 また、衛布計画対象道路事 海が分布しています。
	当該項目に関連する事業特性		本験価格は、施長約15km、 の 準量線数4 車線の一般国面のの数 無線数4 車線の一般国面のの数 のkm/h、一般部が10 60km/h とする計画です。 道路構造は、地表式(路十 離近、切上構造、超型式(超上式( 地下式(トンネル構造)を計画 画しています。 画しています。 一上地又は工作物の存在及び (根用(自動車の走行)に係る 振動の影響が考えられます。 振動の影響が考えられます。 振動の影響が考えられます。 海側の影響が考えられます。 には、 は間には、 は出し、 に、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は
	場 田 影響要因 の区分	工事の集階 (資材及で機械の運搬に 田いる 単両の運搬に (資料で) (立) (立) (立) (立) (立) (立) (立) (立) (立) (立	士地又は工作物の サー 地域 ない (中海 の 東 中 の を (大) (中 )
Š	環境要素	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	海海紫	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	

表 9-3(7) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

Г			41 × 1.1 m
	S	田	が 対
	年洙の	選定理由	1 回難 7 に破壊である評価
			関能域に正、に るん漿」低れ をひ予定 非路技測し 事務な別に
			画圏り選組配にす 国してる王 とっちょう はまえる 強って ときょう かん はっかい ない ない ない ない ない ない ない はまし と なめ ないけい は 強って と は ない ない は は は 強って は は 強って は は ない は は ない は は は は は は は は は は は は は
		評価の手法	ないない。 ないとないない。 ないとなった。 ないとなった。 ないとなった。 ないとなった。 ないとなった。 ないにのなった。 ないにはない。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、
		評価	一   一   一   一   一   一   一   一   一   一
	-		はななるになる。 は、すなさよに事よ。3、基が境及周で 同自存鑑れりな業り 基低準、中が扱い 趣動影画、寒さ音解・準度であって。 できた。
			(選) 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
		手法	がかたない。 数
	计	予測の手法	お歌音 、
十. 社			1. 中部の存在を発展を発展とり強かれた予測式を用したので指に体り低級被告に関いて、低層被害により導かれた予測式を用・中で表験が、事業者により強の対策に関います。 (2. 元) を対し、 (3. 元) を対し、 (3. 元) を対し、 (4. 元)
温出る			「
、 下 形 り			(2) (2) (2) (2) (3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4
の問題		調査の手法	は 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
1 B 1 B		調革	大学 (2) 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
塚児が普評価においる調宜、ア河及の評価の土法			Angle   An
	3	Ŧ	配 化、 業レケ、お は一直護養ポイ人が 音ん置きさ生 実て今界が、 ス 2分を護一ホ社あ に。の 礼宅 施はみ育ぞ 医ケ、人老女一団り 関いいい 同口行 の 当 55 あれの 4 鵬担 15 均自時
4X 9-0(1)	1	重する 地境	およった。 なみ 一般 大力
	i i	当該項目に関連する地域特性	1. 任品等の保全対象の配置 対表の 開本の 活力を 大土地利用となっており、任 用地が多くみらかます。 商中計画的象道路再業実 でり分番圏、幾ケ谷 アンデルセン均権圏、幾ケ谷 アンデルセン均権圏、幾ケ谷 アンデルを の数す施設をしては、 の数す施設をしては、 の数す施数をります。 の様に福祉施設としては、 の数さ回係に配動にあった。 の表すし、 が、対策としては、 が、対策としては、 が、対策としては、 が、対策をしては、 が、対策をしては、 が、対策をしては、 が、対策をしては、 が、対策をしては、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
			。改事が 土組八計 造間周。 1. た用 区でど園ら 様アプホホくムーま C: ケ性状調土地都域メりと尽同法市レーーぬ、心す 低調る住状調土地都域メりと尽同法市レーーぬ、心す 低調る居況査地が市近デ幼し青様人川ミムムぎ消会。 同意公
	1	当該項目に関連する事業特性	本奏 直路 が、
	1	に関連す	路車 48 87 7 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
	l l	当該項目	車築用(0) 権制地画 がを波対線事部 [地道・横下し計・橋走音を数案・作階、造法権下し計・権走音を数案・作階、造式で面又行の
		影響要因 の区分	
	ш	影響要しの区分	上地又は工作物の 存在及び使用( 動車の走行) ( 自
	一連	環境要素 の区分	
		環境要素 の区分	(五) (2) (4) (4) (4)
	理赔	海溪	短 超 短

表 9-3(8) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

手法の選定理由	事業特性及び地域特性 を踏まえ、国土交通省今及 が技術手法を参考に調査、 予測及び評価の手法を参考に調査、 定しました。
評価の手法	1. 回避又は医滅に係る評価 切上工準又は現存の工作物の緊 道、事業者によりの関係に係る必の調の工事 が、事業者により実行可能な範囲立 でできる限り回避又は底滅され、応 の保金にしてくの回避女は底滅され、応 かにしてくの自動が通になれます。 かているかどうかについて、事業者 面します。
予測の手法	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	1. 調査生力。全情報 2. 調査中、全情報 2. 調查の基本的な主法 (所書) の状況 (別本質 (海遊物質量) の状況 (別本質 (海遊物質量) の状況 (別本質 (海遊物質量) の状況 (別本質 (海遊物質量) の状況 (別本質 (海遊物質量) の状況 (別本質 (海遊物質量) の状況 (別本 (別本度)
当該項目に関連する地域	************************************
当該項目に関連する事業特性	道路精造は、地表式、脳 機構能、切上精治、 超型が、 超 地列精治、 超上型、 加 地列精治、 超上型 ( 地下式、 少大和一角 ( が出計画 ) を計 のでによす。 を計計画 対 がにとが通路 寺様 施(切上工等文は既存の工作 がの発光、 工事施工ヤードの をの除法、 工事相工中 下の をの除去、 工事を をある大道、 の をある大道、 の を のがたが、 の を のが、 の のが、 の の の の の の の の の の の の の の
影響要因の区分	工工事の実施を入び、対対の対対は、対対の対対を対対が対対を対対が対対を対対が対対を対対を対対を対対を対対を対対を対対を対
環境要素の区分	大の 一 大の 一 一 大 の 一 の に に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に に に の に の に の に の に の に の に の に に に に に に に に に に に に に
	東 影響要因         当該項目に関連する事業特性         当該項目に関連する事業特性         調査の手法         評価の手法           の区分         の区分

表 9-3(9) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

	手法の選を組由	を参予定事を参予に、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	は、日本の一部の一部の一部の一部の一部の一部の一部の一部の一部の一部の一部の一部の一部の	1. 回離文は カドに カドに カボー カボー カード カード カード カード カード カード カード カー	1. 回避又は低減に係る評価 「直路(掘割式、地下式)の存在に 「通路(掘割式、地下式)の存在に しよりま行可能が適田のできる限り 回避又は低減され、必要でできる限り の他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかと での配慮が適正になされているかと こうかについて、事業者の見解を明ら かにすることにより評価します。
ৰ্	# ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	1. 予測の基本的な手法 切上工等文は既存の工作物の除去、細削 工事、トンネル工事の実施により生じる河 川流量の変動の程度について、事例の引用 又は解析による手法により予測します。 2. 予測地域 予測地域は、調査地域と同様とします。 係る河川流量の変動を的確に把握できる 地点とします。 4. 予測対象時期 予測対象時期 4. 予測対象時期 予測対象時期 4. 予測対象時期 予測対象時期 表別が高量の変動を的確に把握できる 地点とします。 4. 予測対象時期 予測対象時期は、切土工等又は既存の工作物 の除去、掘削工事、トンネル工事の実施に 不多的の除去、組削工事、トンネル工事の実施に 存物の除去、組削工事、トンネル工事の実 簡に係る河川流量への環境影響が最大と なる時期とします。	1. 戸瀬の基本的な手法 道路 (掘割式、地下式)の存在により生 道路 (掘割式、地下式)の存在により生 道路 (掘割式、地下式)の存在により生 道路 (掘割式、地下式)の存在により手湖し、り 実行可能な範囲内でできる限り 日本す。 日本する 日本 文子可能な 予測地域は、調査地域と同様とします。 予測地域は、調査地域と同様とします。 予測地域は、調査地域と同様とします。 存在に係る河川流量の変動を的確に把握 予測地域は、道路 (掘割式、地下式)の 存在に係る河川流量の変動を的確に把握 予測対象時期 予測対象時期 予測対象時期 予測対象時期 予測対象時期とします。
	第	調査すべき情報 地形・地質の状況 地形・地質の状況 調査の基本的な手法 調査は、既存資料調査及び現地調査による () 行います。 () 行います。 () 清別、 () 清別、 () 清別、 () 調査地域 () 調査地域において河川流況等 () 別、 () 調査地域において河川流況等 () 調査地域における河川流況等 () 調査地域における河川流況等 () 調査時期は、調査地域における河川流況等 () 調査時期は、調査地域における河川流況等 () 調査時期は、調査地域における河川流況等 () 対況が適切に把握できる期間及び頻度とします。	
4X 9 0(8)	当該項目に関連する地域特性	水象の状況 調本区域には、国分川、大津 市川利用の状況 都市計画対象道路事業実施 地の西側には、国分川、中央 近郊西側には、国分川、中央 にています。いずれの河川に、 いても船舶等の航行などの いても船舶等の航行などの 地形及び地質の状況 地形及び地質の状況 地形及び地質の状況 地形及び地質の状況 地形及が地質の状況 地形及が地質の状況 地形及が地質の状況 地形及が地質のは、主に上位砂礫台 調査区域は、主に上位砂礫台 が分布しています。 が分布しています。 が分布しています。 が分布しています。 に、人工地根である庭上砂を 加速では、谷庭平野を覆うた。 に、人工地根である庭上砂 が分布しています。 ががか布しています。 ががか布に、一位の一位の一位の一位の一位の一位の一位の一位の一位の一位の一位の一位の一位の一	及び下末吉層を主体と 東ローム層が分布して また、都市計画対象道路 にならがらがら地積物と担立 では、形式を推積物と担立 では、時が分布して、中央の大神 は関めが分布しています。
	当該項目に関連する事業特性	道路構造は、地表式(盤出 構造、切上構造)、超型式(報 とのでは、カンネル構造)を引 面しています。 部計引面外象道路事業実施 をは、公共用水域を通過することが想定され、工事の集 物の際去、組削工事、トンネル工事の実施)に係る河川消 量への影響が考えられます。	対象道路は、延長約 15kmの一般国道の改築事業です。 道路構造は、地表式(協士 構造、切上構造)、組割式(協 開構)、 語上式(局架構造)を計 地下式(トンネル構造)を計 地下式(トンネル構造)を計 間しています。 都市計画対象道路事業実施 都市計画対象道路事業実施 (新割式、公共用水域を通過することが想定され、土地気す ることが想定され、土地気は に係る河川流量への影響がま えられます。
	項 目 影響要因	DRが 工事の実施 工事を 作物の除去、 指導 手の実施 事の実施 事の実施	土地又は工作物の 存在及び供用 (道 路 (地表式又は捆 割式、地下式)の 存在)
	環境環境要素	- A文 環境   河川	

表 9-3(10) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

手法の選定理由		等業特性及び街域特件 を踏まえ、「推集技術指針 参考資料等を参考に調査、 ・測及び評価の手法を選 定しました。	
	評価の手法	1. 回避又は低減に係る評価 型し工等文は既存の工作物の除 基地工事、アネル工事の集職 に係る地下水への影響が、事業者に に係る地下水への影響が、事業者に に外る地下水への影響が、事業者に はり集行可能な範囲内でできる限り 回避なは低減され、必要に応じてや の他の方法により線域の保金にでへ の他の方法により解域の保金にでい かたついて、事業者の見解を明ら かについて、事業者の見解を明ら かにすることにより評価します。	1. 回避又は伝滅に係る評価 道路(捆割式、地下式)の存在に 道路(捆割式、地下式)の存在に 後名地下水への影響が、事業者によ り実行可能な範囲内でできる限り 御文は伝滅され、必要に応じてその 他の方法により環境の保全について の配慮が適正になされているかどう かについて、事業者の見解を明らか にすることにより評価します。
中	予測の手法	1. 予測の基本的な手法 切上工等又は既存の工作物の除去、短削 工事、トンネル工事の実施により生じる地 工事、トンネル工事の実施により生じる地 工事、トンネル工事の実施により手で でよる手法により予測します。 予測地域は、調査地域と同様とします。 3. 予測地点 系の地点、切土工等又は既存の工作物 の除去、掘削工事、トンネル工事の実施に 係る地下水の変動を的確に把握できる地 点とします。 4. 予測対象時期 不別対象時期 本別対象時期 大となる地下水の変動への環境影響が最 施に係る地下水の変動への環境影響が最 施に係る地下水の変動への環境影響が最 たとなる時期とします。	1. 可避の基本的な手法 道路(掘割式、地下式)の存在により生 道路(掘割式、地下式)の存在により生 道路(掘割式、地下式)の存在により生 道路(掘割式、地下式)の存在により。 1. 回避又は低減され、事業者により存います。 2. 予測地域 3. 予測地域は、調査地域と同様とします。 3. 予測地域は、適路(掘割式、地下式)の 存在に係る地下水の変動を的確に把握で 4. 予測対象時期 予測地域は、道路(掘割式、地下式)の 存在に係る地下水の変動を的確に把握で 5. かについて、事業者の見解を明らか たついて、事業者の見解を明らか につかとすがにいるかどう かについて、事業者の見解を明らか につかとすがについて、事業者の見解を明らか につかとすがにいるかどう が表大となる時期とします。 3. 表別対象時期 予測を 予測を 予測対象 予測を 予測を 予測を 予測を 予測を 予測を 予測を 予測を
	調査の手法	調査すべき情報 地下水の状況 地下水の状況 地下水の状況 地下水の東水状況 調査の状況 調査がよう。 調査は、既存資料調査及び現地調査による 精の収集並びに当該情報の整理及び解析に 19 行います。 調査地域に、地下水の変動等の影響を受け いまそれのあると認められる地域とします。 調査地点 調査地点 調査地点 調査地点 調査地点 調査地点 調査地点 調査地点	
	当該項目に関連する地域特性	道路構造は、地表式(盛土1.水象の状況 機造、切土構造)、掘割式(監)、掘割直医域には、国分川、大津 型構造)、掘上式(高架構造)川、神崎川等が存在していま 面しています。 画しています。 画しています。 野体の(切土工等文は2. 湧水の状況 野体のには、短かの(切土工等文は2. 湧水の状況 野体の工作物の除者、掘削工 事業、トンネル工事の実施)にが存在しており、弁財天神社、 系る地下水への影響が考えら大門自然観察園内の湧水等が 分布しています。 3. 地下水の利用の状況 調査区域の8 自治体では、工 場下水の利用の状況 調査区域の8 自治体では、工 場下水の利用の状況 調査区域の8 自治体では、工 場別、地下水の利用のボス がは2 本、202 本と相市が限を がは2 本、202 本と相市が限を 数くなっています。 また、衛市計画対象道路事業 実施区域は1年の国の国分川周辺と はが分布しています。 また、衛市計画対象道路事業 実施区域の1年間の国分川周辺では のはの事がが3 にいます。 また、衛市計画対象道路事業 実施の対域の2 末、一位の離り回り、11周辺では、4 位がの大記 11周辺では、4 位の事の月川周辺では、4 位がの対域の1月 1月 1	画 類な反域には、下総合地を覆 ・ 支減蔵野ローム層、立川ローム ・ 田園東ローム層、立川ローム ・ サ・ ・ また、都市計画対象道路事業 ・ 実施と敬の西側の国分川周辺 では、泥がち推積物と埋立地推 では、泥がち推積物と埋立地推 では、泥がち推積物と埋立地推 では、泥がち推積物と埋立地推 が分布し、中央の大準川及 ・ 体積物が分布しています。 ・ 推積物が分布しています。
	当該項目に関連する事業特性	道路構造は、地表式(kg- 神術造、切上標準治、組制法( 神術性)、 地上式 (高級構造) 地下式 (トンネル構造) を言 面しています。 面しています。 一工事の実施の紀土等文( 大・ンネル工事の実施) ( 事、トンネル工事の実施) ( 事、トンネル工事の実施) ( は、おいます。	対象道路は、延長約 158.の一般国道の改築事業です。「超路構造は、地表式、(極端、) (極端、) 切上構造、) 加制式 (下ンネル構造) 加工式 (下ンネル構造) を目面しています。 土地又は工作物の存在及7 は (
IIII	影響要因の区分	工事の実施(切井・一大事の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の一十年、の子子・の一大学の一十年の大学・の一大学・大学・日中・一大学・大学・日中・一大学・19世界・19世界・19世界・19世界・19世界・19世界・19世界・19世界	上地又は工作物の 存在及び供用 (道 路 (地表式又は捆 彎式、地下式)の 存在)
) (1)	乗場     環境要素       の区分	· · · · · · · · · · · · · ·	

表 9-3(11) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

	手法の	選定理由	事業特性及び地域特性 を踏まえ、国土交通省今及 が投術手法を参考に調査、 予測及び評価の手法を 定しました。 定しました。	
		評価の手法	1. 回避又は低減に係る評価 相割工事、アンネル工事の実施に まの場合の部分で、事業者に より実行可能な範囲内では多の限り 回避又は低減され、必要に応じてそ の他の方状により環境の保全につい ての配慮が適正にないなかど うかについて、事業者の見解を明ら かにすることにより評価します。	1. 回避又は伝滅に係る評価 道路(相割式、地下式)の存在に 道路(在地下水位への影響が、事業者に より集行可能な範囲内でできるであり 回避又は低減され、必要に応じてを の他の方法により環境の保全につい ての配慮が適正になされているかど うかについて、事業者の具解を明ら かにすることにより評価します。
	中	予測の手法	本的な手法 たいネル工事の実施により生 性の変動を予測し、その結果を 整めだ下量を予測します。 理論モデルによる計算又は数値 は、調査地域のうち、地盤沈下 地域とします。 は、大位の変動を的確に把握 をします。 は、相削工事、トンネル工事の は下水位の変動を的確に把握 はがは、相削工事、トンネル工事の はがは、相削工事、トンネル工事の はがは、相削工事、トンネル工事の はがは、相削工事、トンネル工事の 時期 時期に、相削工事、トンネル工事の 時期に、相削工事、トンネル工事の 時期に、由削工事、トンネル工事の 時期に、由削工事、トンネル工事の はがします。	1. 戸瀬の基本的な手法 道路(掘割式、地下式)の存在により生 道路(掘割式、地下式)の存在により生 道路(掘割式、地下式)の存在により生 道路(掘割式、地下式)の存在により生 1. 回遊又は伝域に行いての 2. 予測地域 2. 予測地域 2. 予測地域 3. 予測地域 3. 予測地域 3. 予測地点 4. 予測対象時期に、道路(掘割式、地下式)の 存在に係る地下水位の変動を的確に把握 4. 予測対象時期 4. 予測対象時期 4. 予測対象時期 4. 予測対象時期 4. 予測対象時期 5. かにかることにより評価します。 6. かにかることにより評価します。 6. かにかることにより評価します。 6. かにかることにより評価します。 6. かにかることにより評価します。 6. かにかることにより評価にます。 6. かにかることにより評価にます。 6. かにかることにより評価にます。 6. かにかることにより評価にます。 6. かにかることにより評価にます。 7. かとなる時期とします。 6. かにかることにより評価にます。 7. かとなる時期とします。 6. かにかることにより評価にます。 7. かにかることにより評価にます。 6. かにかることにより評価にます。 7. かにかることにより評価にます。 7. かにかることにより評価にます。 7. かにかることにより評価にます。 7. かにかることにより評価にます。 7. かにかることにより評価にます。
		調査の手法	調査すべき情報 地下水の状況 情報の地震の地質・水理の状況 動産の基本的な手法 調査は、既存資料調查及び現地調査による 等では、地子水位の変動により、地盤 調査地域、地下水位の変動により、地盤 調査地域、地下水位の変動により、地盤 調査地域、土でおそれのあると認められる地域としま 調査地点 調査地点 調査地点 調査地点 調査地点 調査地点 調査地点 調査地点	
. (11)0 0 X	は対対   大学が対対   大学が対対	K	水象の状況 調査医域には、国分川、大津 調整医域にでの状況 地盤式下の状況 地盤式下の変動量は、8.9~ 5.6mmとなっています。 地下水の利用の状況 地下水の利用の状況 地下水の利用の状況 地下水の利用の状況 地下水の樹木量は108㎡/日 たっています。 地下水の樹木量は108㎡/日 たって、まず。 地下水の樹木量は108㎡/日 たって、まず。 地下水の樹木量は108㎡/日 たって、まず。 地下水の樹木量は108㎡/日 、地下水の樹木量は108㎡/日 、地下水の樹木 、一、 、一、 、一、 、一、 、一、 、一、 、一、 、一、 、一、 、一	55m 調査区域には、下総合地を覆 方。 う販売町・レートー 経土関東ローム圏が分布していま 経土関東ローム圏が分布していま は、また、都市計画対象道路等業 き計 実施区域の西側の国分川周辺 では、泥がち堆積物と埋立地堆 及び積物が分布し、中央の大津川及 では、泥がち推積物と埋立地推 なび積物が分布し、中央の大津川及 は、、
	当該項目に関連する重要特性		「	対象道路は、延長約 15kmの一般国道の改築事業です。 道路構造は、地表式(協士 通路構造は、地表式(協士 動構造、切上構造)、補制式(組 型構造)、第七次(那段構造)を計 地下式(トンネル構造)を計 国しています。 土地又は工作物の存在及び 供用(道路(地表式、細割式、 地下式)の存在)に係る地下 水位への影響が考えられます。
	[ 田 影響用圧		工事の実施(超) 中一一年の美に 一年の美に 一年のまた。 一年のまた。 一年のまた。 一日本の本のでは、 1990年の、 1990年の、 1990年の、 1990年の、 1990年の、 1990年の 190年の 1900年の 1900年の 1900年の 1900年の 1900年の 1900年の 1900年の 1900年の 1900年	士地又は工作物の 存在及び供用 (道 路 (地表式又は梱 割式、地下式)の 存在)
Ā	項標格面表	の区分	を開発されています。	
	環境	要素	韓異	

表 9-3(12) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

		特令 調と なに進まで起るに含みまればない。 性及 紅選 の つ 又 せ あ 因 類 つ 行 図 し
	手法の強化曲由	
	甲頭	事業特性及び地域特件 を解する。 を解する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
		る実実の配にす
	共	1 な存を限してかま。 整体等まなりい用る
	が年の中が	(
		1. 回避又は佐成に係る日照 道路(清上式)の存在に係る日照 連路な範囲内でできる限り回避又は依可 離なが置用かでできる限り回避又は依 強され、必要に応じてその他の方法 適正になまれているかどうかにのが で、事業者の見解を明らかにするに とにより評価します。 2. 基準又は目標との整合 とにより評価します。 2. 基準又は目標との整合 に起因するとになるといませんが、 に起因する目形によりませんが、 となる指標である「公共施設の設置 に配因する日かによりまする損毒等 に配因するのれているかとする日照 に表の費用のしていませんが、 に配因する日かによる基準と の整合が図られているかどうかを引 面します。 面します。 面します。
		株式   1   1   1   1   1   1   1   1   1
	#	5な子法 5な子法 7なんを 7なんを 7なめる式を用い、 1年す。 1年す。 1年す。 1年する 1年等の 1年等の 1年等の 1年等の 1年等の 1年等の 1年等の 1年等の 1年等の 1年等の 1年等の 1年等の 1年等の 1年度を 1年度の 1年度を 1年度の 1年度を 1年度を 1年度を 1年度の 1年度を 1年度を 1年度の 1年度を 1年度の 1年度を 1年度の 1年度を 1年度の 1年度を 1年度の 1年度の 1年度を 1年度の 1年度を 1年度の 1年度を 1年度の
<b>4</b>	· 京 地兰 产 北	1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
ৰ	T'	
トの重出の文字に		いに提 造形響日時① のし 用さい。 、影し とのを照かを 保ま 等し は 位日よ 3 保 8 物盤変ま 4 次 下大・影り 予予全 予予学 予予学 予予学 予予学 予予学 予予学 予予学 予予学 予予学
		調査すべき情報 地形の状況 地形の状況 地形の状況 地形の状況 理査の基本的な手法 用等の立地状況、現状において著しい目影 影響を及ぼす中高層建築物の位置を把握し う周辺地域には、道路構造が橋又は高架構造と も周辺地域には、道路構造が橋又は高架構造と 生が予想される範囲(冬至日の午前8 時か 年後 4時までの間に日影が生じる範囲)を 建が予想される範囲(冬至日の午前8 時か 一般 1時
三階のこ	開発の北北	なななない。 一種を及びの選集を表する。 一種を表する。 一述を、 一述を 一述。 一述を、 一述 一述 一述 一述 一述 一述 一述 一述
G / III	用	の 発生 を できます できます できます できます できます できます できます できない できない できない でき できない できない はい
(71)0 6 XF	b 城特性	び。の 海り。事と嫌校、。てと始養別々を注章 位 道分の周が側を盛住 記 化、 禁しケ、お は一路襲業ホ人人が 砂 路上大宮広の覆土 智 さ住 実て存みお 、スの老譲一木社あ 鰈 事同律でが国う改明 (
¥	関連する均	第10分状況 対には、超及び任う であられます。 の保全対象の配置 おかられます。 はなかられまり、任 になっており、任 になったがり、任 になったがり、任 になったがり、任 になったがり、任 になったがり、任 になったが、 では、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が
	当該項目に関連する地域特性	対象道路は、延長約 15km 1. 土地利用の状況 の一般国道の改築事業です。 道路構造は、地表式(優土 地等が多くみられます。 海構造、海上式(所文構造)を計 地でいます。 地では、(トンネル構造)を計 地では、(トンネル構造)を計 地では、(トンネル構造)を計 地では、(トンネル構造)を計 地では、(トンネル構造)を計 地では、(トンネル構造)を計 地では、(トンネル構造)を計 に係る日照四音の影響が多え 超面でいます。) (年間 (道路 (満上式))の存在) 用地が多くみられます。 の数互(の数質施設・光、保証 とり分雑圏、メールンが構圏、業ケ谷み。 ファガルで、の教育施設・光、保証 の保証(の数有施設・と、(本) な の保証(の数有施設・と、(本) な の保証(株) は の保証(株) は の保証(株) は の保証(株) は の保証(株) は の保証(株) は の保証(株) は のは、(本) が のに、(本) が のよっ、(本) が ののでは、(本) が ののでは、(本) が ののでは、(本) が ののでは、(本) が ののでは、(本) が ががらります。 はが分布しています。 はが分布となるのをは可能の回りか はが分布しています。 はが分布しています。 はが分布しています。 はが分布しています。 はが分布しています。 はが分布しています。 はが分布しています。 はが分布しています。 はが分布しています。 はが分布しています。 はずのの回りか にない可能の回りか にない可能の回りか にない可能の回りか にない可能の回りか にない可能の回りか にない可能の回りか にない可能の回りか にない可能の回りが にないの回りが にないのにないのにないのにないのにないのにないのにないのにないのにないのにないの
		なで、実権() 在のが125寸(2) 注解() 在のが212寸(2) 治冬 及在考212寸(2) 治・土銀(計 び在え11組)計 び在え11組(計 財)、 た用 区アど園ら 療アプホホくムーま 6. 地 実で周谷で川う地
	連する事	(では、) (では、) (では、) (では、) (では、) (では、) (では、) (では、) (をは、) (ない) (ない) (ない) (ない) (ない) (ない) (ない) (ない
	当該項目に関連する事業特性	カ医分 大地又は工作物の 対象道路は、延長約 15k 発在及び供用(道の一般国道の投稿業等です。 道路構造は、地表式(配合 (第上式)の存 構造、第上式(高段構造) 地下式(トンネル構造)を計画しています。 画しています。 一地又は工作物の存在及及 供用(道路(第上式)の存在 に係る日照阻害の影響が考え。 られます。
		# 2
	影響要因	の医分 七世紀 文は工作物の 一世紀 ( 端上式 ) の存 ( 一世紀 )
	¥ —	
	環境要素	の の の の の の の の の の の の の の の の の の の
	現海	

表 9-3(13) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

			特記: · 按予選性 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
手法の選定理由		選定理由	事業等性、地域等性、地域等性、 が計算的 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、
_			
		評価の手法	回離又は低減に係る評価 「一年の実施、土地又は工体 「の存権数が、事業者により が可能な範囲内でできる が可離又は低減され、必要 原にてその他の方状によ が適にのな全についてが が適にのなされているか が動しになったことによ 神価します。
		評	1. 回避又は筋減に係る評価 工事の英雄、上地又は工品 物への存在及で、土地スは工品 物への容響が、単業者により 地での存在のできる 現り回避又は低減され、必要 の成じてそのの分子にい が適の保みについて、事業者の見 が適になかれている。 がかたついて、事業者の見 があたったするとによる。
			場本的な手法 1. 回避又は低減に係る評価 にはと重要な権及び、工事の実施、土地又は工作 を生息地が消失、額物への影響が、事業により を力らが重要な権にたじてその他の方式により 展り回避又は低減され、必要 それらが重要な権にたしてその他の方式によい 原のなぼす影響の程度 境が適正のなさついての配 が及ばす影響の程度 環境の存金についての配 が及ばす影響の程度 はずがにしてきる が及ばす影響の程度 はずらかにすることによ 影響が出下水に依 発動が出た地があ がなばすれたれがあ がなばすれたれがあ がなばすれたれがあ がなばすれたれがあ でながなして著し とうかについて、事業者の見 はなばれ対して著し を時期は、事業特 後時期は、事業特 後時期は、事業特 後時期は、事業特 後時期は、事業特 後時期は、事業特 とします。 とします。 とします。 とします。 とします。 とします。 とします。 とします。 とします。 といるのでは を時期は、事業特 をもはるの能性 なる種及び注目すべ がな種をはる可能性 なる種をはる可能性 なる種をはる可能性 なる種をはる可能性 なる種をはる可能性 なる種をないます。 とこます。 とこます。 とこます。 と、そのを をいるがには をいるがになった。 をいるがになった。 をいるがは、事業特 をはりをして著し なる種をないないな。 をは、ままないないない。 をは、ままないないる。 といるのでは、 をは、ままないないる。 をは、ままないないる。 をは、ままないないる。 をは、ままないないる。 をは、ままないないる。 をは、ままないないる。 をは、ままないないる。 をは、ままないないる。 をは、ままないないる。 をは、ままないないる。 をは、まないないる。 をは、まないないる。 をは、まないないる。 をは、まないないる。 をは、まないないる。 をは、まないないる。 をは、まないないる。 をは、まないないる。 をは、まないないる。 をは、まないないる。 をは、まないないる。 をは、まないないる。 をは、まないないないる。 をは、まないないないないないないないないないないないないないないないないないないない
		予測の手法	1. 可避及は低減に係る評価 道路構造と重要な権及び 面から、全生息地の分布館 物への整理が、土地文江工作 間から、全生息地の分布館 物への整理が、事業者により かする区間並びにその程度 集行可能な範囲内できる を把握します。 無た、たれらが重要な確しになるといるの配 なを科学的な別是や類似事 慮が適正なれているの 例を参考に予測します。 とうかについて、事業者の見 ならに、トンネル工事の解を明らかにすることによ 実施、道路の存在による地 り解値の作品できれているの 例を参考に予測します。 ならに、トンネル工事の解を明らかにすることによ な場合がは、調査地域の から影響が程による地 り評価します。 2. 予測地域は、調査地域の かい、重要な種及び注目すべ を考考に予測します。 かい、重要な種及び注目すべ をもましたの影響が相になった。 かい、重要な種及び注目すべ をもまに予測します。 なり回避又はのかにするとによる をもまにする特殊な環境に生息す をもまにする特殊な環境に生息す をもまに、とっまが、 が、重要な種及び注目すべ。 をもまに、とっまが、 をもまに、とっまが、 をもまに、とっまが、 をもまに、とっまが、 をもまに、とっまが、 をもまに、とっまが、 をもまに、とっまが、 をもまに、とっまが、 をもまに、 かは、 は、 ないでは、 ないが、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないが、 ないが、 ないがは、 ないがは、 ないがは、 ないがは、 ないがは、 ないがは、 ないがは、 ないがは、 ないがは、 ないがは、 ないがは、 ないがは、 な
4	斑		# 250
র্	#		情報収集並びに当該情報の整開を取り、必要に応じて個体 50段り環境への影響が少ない。 たし動振影ながない。 たし動振影などない。 大け動機影は一つかり をはず成り、定点観察法、フケンサス法、で点観察法、フケンサス法、ベイトトラップ法 によるな取 により後地形、水系、植物群 により後地形、水系、植物群 により後地形、水系、植物群 により後地形、水系、植物群 により後地形、水系、植物群 にはり動物相の状況」と同じ になりでその端部から 250m程 には要な種等が生息する可 にならない。 になりたい動物(主に猛禽類)を対象 でで重要な種等が生息する可 にならない。 でで重要な種等が生息する可 ます。 に、調査時期は、そこに生息 は、ただし、猛禽類について ます。 に、調体素、 えだし、 まず。 でします。 でで重要な種等が生息する可 ます。 を基本とします。 では ががは、そこに生息 はずかな調査時期は以下 でして重要な種等が生息する可 を表す。 を表本とします。 を表本とします。 を表でします。 を表本とします。 を表がのな調査時期は以下 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
トの重出の女家で			分布の状況 2.20 2.20 2.20 2.20 2.20 3.2
明耳、 下例2		調査の手法	# # # # # # # # # #
語の / 1 CD - 1			在 (
本先が古井面においる			情況の陰陰陰 財産はび、大獲り語で、西文道の直直直形にの等陰。等態 、事は お生しのの形 、ひ、諸応て諸・神文道する4季にの、し
			は、神 ケまに土色で 分 区野川が周二ま う下分業 1/4周。 が て 2月月 6位 7万 7 11 3月月 6位 7万 11 3月 11 6 11 7 7 12 月 12 月 12 月 12 月 12 月 12 月 12
(01)0-6 XF	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	加城特性	道路構造は 地表式 1.動物の生息基盤の状況 (水象、土壌、1 (盤土剤、6) (盤土精造、9) 上葉の状形。 (超)、地下式 (形ಳ精 調査区域には、国分川、大津川、神 地形及 (形皮) (形成構 調査区域には、国分川、大津川、神 上華の実施(建設株 土壌や用計画が存在しています。 工事の実施(建設株 土壌や用計画が全道路事業実施区域に 1 (2) (2) (2) (2) (2) (2) (3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4
	1	当該項目に関連する地域特性	・動物の生息基盤の状況(水象、土 地形及び地質、土地利用の状況) 割権をが存在しています。 と、着なり状況 割量を成立には、国分川、大津川、 と、対し、大津川、 ・一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
	1000	当該項目	1. 動物の生息基盤の共 地形及び伐地質、土地 調本区域に江、国分 等川等が存在していま 調本区域に大、国分 海中計画が存在していま 連本区域の土壌が江、 に、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
	こ関連する		(
	当該項目に関連する	· .	(
		影響要因 の区分	福後/   15   15   15   15   15   15   15   15
	田一	** ~	1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
		環境要素 の区分	国
	環境	海、	(4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)

表 9-3(14) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

	o #	被被
	手法の選定理由	び 事業 等性、 地域 等性、 地域 等性、 地域 等性、 力量 即 路線 強 型 が 型 地域 型 が 型 地域 型 が 型 地域 中 が 型 が 型 が 型 が 型 が 型 が 型 が 型 が 型 が 型 が
	評価の手法	1. 回避又は低減に係る評価 工事の実施、土地又は工合物への存在及び採用に係る計 物への存在及び採用に係る計 物への存在及では 物での作成が高田かつできる 現り回離又は低減され、必関 環境の保入して、つかに のが適になかって、つか 解の関しなかにするになって、の部 解を明らかにするになって、 の計画します。 の計画します。
	予測の手法	
を治が国門のでは、1980年には、1980		1. 調査なる情報の 2. 調査な産及び酵素の全能 ・ 重要な種及び酵素の生物 ・ 重要な種及び酵素の生物 ・ 重要な種及び酵素の子が洗売 ・ 重要な種及び酵素の分布状元 関本の基本的たより行います。 り機動相の洗取しよう方法とします。具体的な調査方法は以下のとおりで で 電像な解析のより行います。 ・ 一度なイ構及び群落の上の影響が少ない、個体の目視、必要に応 で と の
	5 当該項目に関連する地域特性	1. 植物の生育基盤の状況 (水象、土壌、 地形及び地質、土地利用の状況) 別本象の状況 調査を成びには、国分川、大津川、神 調剤を展立ない土壌がよっまり。 調剤を展立ない土壌がなく分布しています。 計算と成立ても上線が多かしています。 一般や黒ボク土塩がなく分布しています。 一般が、五個のは、低位記段土壌、褐色 は、主に中央部から東側では黒ボクトー 無が、土壌がなく黒ボク土塩が分布しています。 調査を域の機能の状況 調査を域は、主に上位砂礫台地が分布しています。 は、中央の大津川周辺と東側の国分川周辺では、各庭平野を複うように、人工 地形である磁土改変地が分布しています。 は、中央の大津川周辺と東側の国分川周辺では、各庭工野を複うように、人工 地形である磁土改変地が分布しています。 調査を域の地質は、下総合地を覆う が、中央の大津川周辺と東側の国分川周辺では、 にがち上植積物と埋立地准積物が分布しています。 調査を域の地質は、下総合地を覆う が、中央の大津川の対が上の上層が分布 に、中央の大井川のは、近郊は地積積が分布しています。 調査を域には、面側の国分川周辺では、 にがち上椎積物を分布しています。 制力ではたがた堆積物が分布しています。 、大板や部様間が多がます。 は、おりがは、直要な植物を分析となります。 がおりますり、後間神社の様、非維管束植物 377 種、非維管をは極か 377 種、非維管束植物 274 種、 製造を域には、重り回分川周辺では、 がから、地間が、ないを樹木等は伊井部神社の 素の3件が分析しています。 がから1年1、後間が、自動力とのが、また、重要 本の3件を簡析との表、可福等をははが、14億・ 本の3件が、後間神社の様、14億・ 本の3件が、2012年は、14億 を11億所が存在します。
	当該項目に関連する事業特性	道路構造は、地表式 : 植物文 : 植物 : 加速 : 植物文 : 植物 : 加速 : 加
		に事の実施(建設 機械の稼働、工事 層、工・一・ドの設 層、工・工・・の設 ので在及びは が存在及び供用 が存在及び供用 が存在と、の存在 が存在との存在 が存在との存在 が存在との存在 が存在との存在 が存在と、の存在 が存在と、の存在 ががでは、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一
四	環境要素の区分	画 落
	選 業 選	

表 9-3(15) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

	手法の選定組由	は ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
	整備の手法	1. 予測の基本的な手法 「語解構造並びに注目種等 工事の実施、土地又は工作 の生息・生育基盤及び注目 物の存在及び供用に係る生 生育基盤が高かする。定息、懸示への影響が、事業者によ 生育動産館が部かする区間及 り実行可能を存むでき 性育動産の活動でする には、それらが注目種・ また、それらが注目種・ また、それらが注目種・ また、それらが注目種・ また、それらが注目種・ また、それらが注目種・ また、それらが注目種・ また、それらが注目種・ また、それらが注目種・ また、それらが注目種・ また、それらが注目種・ また、それらが注目種・ また、それらが注目種・ また、それらが注目種・ はの生息・生ず状況の変かどうかについている を含む地域を特徴づける生より評価します。 が過にする を含む地域を特徴づける生より評価します。 ならむ地域を特徴づける生より評価します。 ならむ地域を特徴がは、 があると認められる地 他の手法により予測しま できらに、トンネル工事の 実施、道路の存在による地 できらに、トンネル工事の 実施、道路の存在による地 の関係を踏まえ、、科学的な の関係を踏まえ、、科学的な かりませずがある場合は、そ の関係を踏まえ、、社工権 に対して著しい影響を及ぼ でがして著しい影響を及ぼ でがして著しい影響を及ぼ でがないできたがある場合は、そ の特性を踏まえて、注目 種・ 作力できがした。 手が動物を時期は、事業特 でがないます。 の物性を踏まえ、注意 をしたます。 の物性を踏まえ、、注目 をしたます。 ながしたまないましま。 本のがあると認められる地 域とします。 ないてます。 ながとします。 ながといまないましま。 本のがまる、 本のがまる。 本のがまると認められる地 域とします。 ないては、 本のがまる、 本のがまる。 本のがまると認められる地 ながとします。 ながといまな、 が、 を表してます。 ながといまな、 が、 を表してます。 ながといまな、 が、 を表しなは、 が、 を表しなは、 が、 を表しなは、 が、 を表してます。 ながといまな、 が、 が、 を表しなないまないまないまない。 を表はないまないまないまないまない。 を表はないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまな
	水圏の年本	1.子別海島本体的な中央 一、正の海の地本的な中央 一、正の海の海水の大力が10分割が 一、正、大力のが20万円 一、大力のが20万円 一、大力のが20万円 一、大力のが20万円 一、大力のが20万円 一、大力のが20万円 一、大力のが20万円 一、大力のが20万円 一、大力のが20万円 一、大力のが20万円 一、大力のが20万円 一、大力のが20万円 一、大力のが20万円 一、大力のが20万円 一、大力のが20万円 一、大力の20万円 一、大力の20万円 一、大力の20万円 一、大力の20万円 一、大力の20万円 一、大力の30万円
以		<ul> <li>・ 調査中へき情報</li> <li>・ 少価地の自然環境に係る概況</li> <li>・ その他の自然環境に係る概況</li> <li>・ その他の自然環境に係る概況</li> <li>・ その他の自然環境に係る機況</li> <li>・ を自動を発気する性素の注目種・群集の状況</li> <li>・ 注目種・群集と他の動植物の食物連鎖上の関係及び共生の関係</li> <li>・ 注目種・群集の生息、生育の状況</li> <li>・ 注目種・群集の生息、生育の状況</li> <li>・ 注目種・群集の生息、実域もしくは生育環境</li> <li>・ 注目種・群集の生息、実域もしくは生育環境</li> <li>・ 注目種・群集の生息、実域もしくは生育環境</li> <li>・ 財産の外域により行います。</li> <li>・ 財産物をのの関係をします。</li> <li>・ 財産制度により行います。</li> <li>・ 力性の自然環境に係る概況</li> <li>・ 大の他の自然環境に係る概況</li> <li>・ 大の他の自然環境に係る概況</li> <li>・ 大の他の自然環境に係る概況</li> <li>・ 大の他の自然環境に係る機況</li> <li>・ 大日種・群集の分布状況、注目種・群集の仕患・生育の状況</li> <li>・ は目種・群集の分布状況、注目種・業集のは患・生育の状況</li> <li>・ 財産・生力・植物財産とは、他の動植物の食物連鎖上の関係及び共生の関係を対する関係・研究論文、その他の資料により指地を持続の金融上を、工作の自然環境に係る概況</li> <li>        国産・研究を対しては、電付制し、は対ける植物相の調査結果を活用します。</li> <li>・ は目種・群集の生態、単位の資料に係る概況</li> <li>        国産地域、</li></ul>
	当該項目に関連する地域特性	・自然環境の類型区分 に地形に分類されていますが、動植物の生息・生育基盤として着目した場合、 の生息・生育基盤として着目した場合、 の世間・大力を認められませい。 調査区域の自然環境の類型区分は、 に対しています。 に対しています。 ののでは、重要温地が2億所、 ののでは、重要温地が2億所、 ののでは、重要温地が2億所、 ののでは、1億所存在しており、 ののでは、1億所存在しており、 ののではでは、1億所存在しており、 ののではでは、1億所存在しており、 ののではでは、1億所存在しており、 ののではでは、1億所存在しており、 ののではではではでは、10億所存在しており、 ののではではできた。 ののではでは、10億所を存在しまり。
	当該項目に関連する    事業特性	正事の実施(権限) (
园 园	-	生態系 地域を特徴づけ 工事の実施 る生態系

表 9-3(16) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

	理由	事業特性、地域特性及び 画段路線境配 鷹 書の検 る及び野 法、国上交通 電子 が世 板 手 法 を 参 ま 電 定 し ま し た。 を 選 定 し ま し た。
	手法の選定理由	
	評価の手法	1 回 藤 公 は ない は
# # #	1	1. 予測の基本的な手法 1. 予測の基本的な手法 型本族職望地点及び景觀資源と都市 國本與道路之及交配位置、程 を把握します。 2. 干測地域 力 トモンタージュ技等の視覚的な 現力法により、眺望景觀の変化の程度を 類力法により、眺望景觀の変化の程度を 理力法により、眺望景觀の変化の程度を 活力を発れがあると認められる地域と 計分象時期 一清対象時期 活力、完整は がに主要な眺望景觀に係る環境影響を がに主要な眺望景觀に係る環境影響を がに主要な眺望景觀に係る環境影響を がに主要な眺望景觀に係る環境影響を がはたおげる代表的な主要な眺望点 器を 製造地域におげる代表的な主要な眺望点 製造機強派びに上要な眺望景觀に係る環境影響を 手動なを がに主要な眺望景観に係る環境影響を 手動なを がに主要な眺望景観に係る環境影響を 手動なを がに主要な眺望景観に係る環境影響を 手力。
	調査の手法	調査すべき情報 主要な眺望地点の状況 実観資源の状況 調査の基本的な手法 調査が、既存資料調査なび、調査すべき情報 なお、既存資料調査ないて調査すべき情報 なお、既存資料調査ないて調査すべき情報 なお、既存資料調査ないて調査すべき情報 は不はする判断された場合には、開き取り において主要な眺望点が存在する地域とし、範囲 において主要な眺望点が存在する地域とし、 調査地点 調査地点 調査地点 調査地点 調査地点は、超市計画対象道路の位置等を踏 が、規質的観点及び対象道路の位置等を踏 が、主要な眺望景観に変化が生じると想定 か、現質的観点及び対象道路の位置等を踏 が、主要な眺望景観に変化が生じると想定 が、現質的観点及び対象道路の位置等を踏 が、主要な眺望景観に変化が生じると想定 が、現域の報性を確まえて主要な眺望景観が当 調査時期は、主要な眺望点の利用状況、景 関係の特性を確まえて主要な眺望景観が当 にないて代表的なものとなる期間、時 にな時間帯をします。
	当該項目に関連する事業特性、当該項目に関連する地域特性	対象道路は、延長約 13km 1. 景觀資源の状況 の一般理道の改築事業です。 適路構造は、地表式(魔土 的・歴史的景観資源が多位的 権能、切土構造、短割式、個 しており、主な景觀資源と同 製作の一位でいます。 地下式、(市架構造)、で、都市計画対象道路事業実施 地下式、(上、水)、構造)を計 区域元(12式、市川市の類面と 地では、(上、水)、構造)を計 区域元(12式、市川市の製面を 地では、(上地区は工作物の存在及び 四周辺の森、鎌ケ谷市の豊 作品 土地又は工作物の存在及び 四周辺の森、鎌ケ谷市の豊 作部 土地又は工作物の存在及び 四周辺の森、鎌ケ谷市の豊 (大町 市地区) 株田 (道路 (地表式、掘割式、精神社の株 ) 放射社の森、市 港上式) の存在)に係る主要 側記念公園、上、時本社の森・ 諸上式。 2. 主な眺望点と眺望泉観の状況、 2. 主な眺望点と眺望泉観の状 2. 主な眺望点として、まずやマカイビュー 等が位置しています。 3. 景観法に基づく泉観計画区 2. 景観活成立の8自治体(市川市、 をが位置しています。 3. 景観法に基づく泉観計画区 2. 景観活成の8自治体(市川市、 2. 景観活成立の8自治体(市川市、 2. 景観活成立の8自治体(市川市、 2. 景観活成立の8自治体(市川市、 2. 景観活成立の8自治体(市川市、 2. 景観活成立の8自治体(市川市、 2. 景観活成立の8自治体(市川市、 2. 景観活成立の8自治体(市川市、 2. 景観活成立の8自治体(市川市、 2. 景観に変形なり2. 「大市市の市側記 2. 景観に変形で表現が 3. 景観法では、大市市の市場に 2. 景観に変形に 3. 景観活成立の8自治体(市川市、 2. 景観に変形に 3. 景観音がでの14市が 2. 古がやマカイビョー 等がでもの市場で 3. 景観に変形を景観に 3. 景観に変形を景観に 3. 景観にないます。 3. 景観にないます。 3. 景観にないます。 3. 景観にないます。 3. 景観にないます。 3. 景観にないます。 4. 本がやマカイビョー 4. 本がでマカイビョー 等ができる。 3. 景観にないます。 3. 景観にないます。 4. 本がでマカイビョー 第2. 本がにないます。 4. 本がでマカイビョー 4. 本がでマカイビョー 4. 本がでマカイビョー 4. 本がでマカイビョー 4. 本がでマカイビョー 4. 本がでマカイビョー 4. 本がでマカイビョー 4. 本がでを表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を
		十世人は 中世人は 中世人は 一世、 一世、 一世、 一世、 一世、 一世、 一世、 一世、
世	環境要素の区分	主要ない は 海線 連 記 記 海線 連 記 記 海線 連 記 記 海線 連 記 記 重 理 連 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記
	選業	

表 9-3(17) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

			域 有
	年来の	選定理由	事業特性及び地域特殊 (な技術主法、国土交通省今及 (な技術主法を参考に調査、 子測及び評価の手法を参考に関本 定しました。
			を ひ 予 信
		評価の手法	正面様又は伝滅に係る評価 「国議又は伝滅に、 通路、他表式、 地合いの体 か合いの活動の場への影響が、 事業 者により実行可能な範囲内ででやる でもの一方状氏減され、必要に応じ での一方が、 り類に応じ ついての配慮が適正になされている のとうかについて、 事業者の見解な 明らかにすることにより評価します。 す。
環境影響評価における調査、予測及び評価の手法	事 紙	予測の手法	1. 予測の基本的な手法 場及で自然養殖の改変 場及で自然養殖の改変 場及び自然養殖の改変 達な人と自然との触れ合いの活動の 場及び取り巻く自然をの触れ合いの活動の は下すっことにより、改変の位置、程度を把握 します。 の利用性の変化 主要な人と自然との触れ合いの活動の 場に供せられる施設又は場の利用性の変 化及び主要な人と自然との触れ合いの活動の 場に供せられる施設又は場の利用性の変 化及び主要な人と自然との触れ合いの活動の 場に供せられる施設又は場か自動の場合を 動の場への到達時間・距離の変化を把握し 事項な人と自然との触れ合いの活動の 場に供せられる施設又は場から認識され の場との風れ合いの活動の場の特性 子別対象時期は、 子剤性域に、調査性域のうち、、主要な 人と自然との触れ合いの活動の場の特性 を踏まえて、主要な人と自然との触れ合いの活動の があると認められる地域とします。 子別が象時は、道路(地表式、掘剤式、 「子別対象時期は、道路(地表式、短割な 大と自然との触れ合いの活動の場の特性、主要な 人と自然との触れ合いの活動の場の特性、主要な 人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況を 書との触れ合いの活動の場の利用状況を 書まて、主要な人と自然との触れ合いの活動 動の場に係る環境影響の程度をもり確に担 種できる時期とします。
		調査の手法	1) 上自然との極れ合いの活動の場の
表 9-3(17) 3		当該項目に関連する地域特性	<b>4 ~ 大 - 火 ト 三 日</b>
		当該項目に関連する事業特性	対象道路は、延長約15kmの一般知道の被奪事業です。 道路構造は、地表式(盛生 構造、切上構造)、掘動式(細 地下式、トンネル構造)を計 地下式、トンネル構造)を計 地下式、トンネル構造)を計 地下式、トンネル構造)を計 地下式、トンネル構造)を計 地下式、トンネル構造)を計 地下式、トンネル構造)を計 地では工作物の存在及び 活上式)の存在及び 活上式)の存在及び 高上式)の存在及び 高上式)の存在の 高上式)の存在の 高上式)の存在の 高上式)の存む。 高上式)の存在の 高上式)の存む。 で、との触れるやの活動がある。 かの場への影響が考えられま す。
	画画	影響要因   の区分	中土地及び江 工作物 今年 日本地 ない 日本地 ない 日本地 ない 日本地 ない 日本 は 一年 を は 日本 は 一年 2 日本 は 日本 1
		環境要素 の区分	主要な人と 自然 人と 自然 かんと 自然 中の場 中の場 中の場 中の場 中の場 中の 一番 中の 一番 中の 一番
	華縣	米米米	人 ン o o o o o o o o o o o o o o o o o o

表 9-3(18) 環境影響評価における調査、予測及び評価の手法

			性及意
	9	田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	# 業等性及び地域等性及び地域を を を を を を が が が が が が が が が が が が が
	手法の	選定理由	# 元字びつ 性国、法評と 及士 <sup>2</sup> 26年。
			をなった。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
			1. 回避又は成蹊に係る評価 型力上電子な野体及の工作物の除去を踏まず、国本党部合。 型上電子の影響が、事業者にび技術手法を参考に調査、 1. り 実行可能な範囲内でできる限り 予測及び評価の手法を適 可能又は成数され、必要に応いて、作しました。 の他の方法により録準の保みについて、企りました。 かにすることにより評価します。 かたすることにより評価します。
		:洪	なの響力な強さ者を 下に、できるない。 田作、ではのたり。
		評価の手法	減は等なさよ正、にに既の館れらに事よ、
		Illier	X H 18 6 5 7 0 日 7 - 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
	_		# H
			語っ
		#14	の 事
共	7	予測の手法	には、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、
й Н	ŀ	H	予測の基本的な手法 事業特性及び地域特性の情報を基に、建 工事に伴う廃棄物等の種類ごとの発生 及び最終処分量を予測します。 予測地域 方測地域に廃棄物等が発生する都市計 対象道路事業実施区域を基本とします。 なお、再生利用方法の検討にあたって 次行可能な再生利用の方策を検討する かに調査区域を含む範囲とします。 が発生する工事期間とします。
予選及の評価の手法			1. 可測の基本的な主体。 1. 可測の基本的な主体。 整工事に伴う庭療物等の信頼にとの発生に係る庭療物等の影響が、事業者に 量及び最終処分量を予測します。 2. 予測地域 2. 予測性が事業が認定を基本とします。 2. 予測が多時期は、建設工事に体う庭薬物 予測が多時期は、建設工事に伴う庭薬物 予測が多時期は、建設工事に伴う庭薬物 予測が多時期は、建設工事に伴う庭薬物 予測が多時期は、建設工事に伴う庭薬物 予測が多時期は、建設工事に伴う庭薬物 予測が多性期間とします。
11.000円			株 u 、 場 o 性 n 2 c m 2 c m 2 c m 3 c m 2 c m 3
			、今本足所 本たとする 事なとする
見にの記		調査の手法	なに薦う薦
境児影響評価にも17の調宜、		調査の	に繋作などのおける。
はいます。			及及 幸福 が、
坂児京			次 予測及び評価に必要な情報に、事業特件及 な の地域特性の情報により有名からに な の は
2(18)	44-44-144	東本庁	数 4 4 4 6 2 4 4 6 2 4 4 6 2 4 4 4 4 4 4 4
₹ 9-3(18)	当該項目に関連する地域特性		開及び (208 自) (207 次 207 ) (207 ) (207 ) (30 8 E) (30 8 E) (40 E) (40 E) (40 E) (50 E) (60 E) (70
	, HH	田(ご服)	をあるをなる。 のではなっない。 のはなった。 のはなった。 のはなった。 のはなった。 のは、。 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、
		正談相	田 説
	工作作品	当談項目に関連する事業特性	道路構造は、地表式(盛土1. 商業物の処理及び施設の3   構造、第上式(高架構造)
	1 1 1 H	運ずる	、造式ネ。)除副泥ヶが区をす地、)、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
	E A	国田(ご)	森の (1) (1) (2) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4
	17. 95.17	… ※	土 エ エ 田 作発生トリ道れが 標別地画 存発生トリ道れが 遺造権下し工の生土鬼」的、考
	100	影響要因 の区分	工事の実施 工事の実施 合の の 会の 会の 会の 会 会 の 会 の 会 の 会 の 会 の 会 の
		影の	1 I I I I I I I I I I I I I I I I I I I
坦			iv.
	700 Life 300	環境要素 の区分	機 付
	地	· #k	
	海,		据 接 转